

古事記・日本書紀と明治国家構想

明治国家は、王政復古の宣言〔1868（慶応3）年12月9日〕にはじまり明治憲法の発布〔1889（明治22）年2月11日〕で、その体制を整えます。そこでの国家構想は、西欧列強との対峙の必要から西欧的「立憲政治」の導入を余儀なくされます。しかし、それは、天皇中心の国家すなわち「国体政治」を基軸にした明治憲法構想として具体化されます。

本講座は、まず、明治国家構想の基軸である「国体政治」論の原型とされる古事記（712年）そして日本書紀（720年）をみなさんとともに、それぞれ一年間かけて読みます。

そして、その作業を終えたのちに、伊藤博文著『憲法義解』（1889年）を、一年間かけて、古事記・日本書紀の「国体政治」論との関連で、読み解いていきます。

なお、〔I〕～〔III〕は、それぞれ独立したものとして開講します。〔I〕だけ、あるいは、〔III〕だけ参加というのも可能です。

〔I〕 古事記を読む（2011年4月～2012年3月 12回）

〔II〕 日本書紀を読む（2012年10月～2013年9月 12回）

〔III〕 憲法義解を読む（2014年4月～2015年3月 12回）

テキスト

〔I〕 倉野憲司校注『古事記』（岩波文庫）

〔II〕 坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注『日本書紀』（岩波文庫）

〔III〕 伊藤博文著・宮沢俊義校註『憲法義解』（岩波文庫）

〔I～III〕 以下の2冊は、三回シリーズすべてをとおして、使用します。

守本順一郎著『日本思想史の課題と方法』（初版＝1974年、未来社、2008年）

守本順一郎著・岩間一雄編『日本思想史』（初版＝1974・81・82年、未来社、2008年）